

教師ノート

週課	第三年 第六課 第二週
単元	サムエル記・2
テーマ	自分で復讐せず、神にゆだねる
タイトル	さばきを神さまにゆだねたダビデ
テキスト	Iサムエル24章、26:1-12
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) ローマ12:21 or ルカ6:27b~28 or Iテサロニケ5:15
AG 日曜学校教案参照箇所	小学科級3巻・主題4-6課「サウルに手を出さないダビデ」 小学上級3巻・主題2-12課「苦しめられた時」
□導入	<p>ダビデはサウルに恨まれ、荒野を逃亡する生活をするようになってしまいました。みなさんだったら、何も悪いことをしたわけではないのに、殺されそうになって、逃げ回る間、どんな気持ちになるでしょうか？自分は悪いことをしていないのに、命をねらわれるのはとてもつらかったでしょう。また、相手は国の王様ですから、逃げるのも大変だったでしょう。その頃、ダビデには約600人のともに戦う仲間ができていました。彼らは、ほら穴に身を隠すことが多かったようです(22:1-2、23:13参照)。</p>
□ポイント1 ダビデはサウルに復讐しませんでした(24:1-7)	<p>ダビデたちが、ほら穴の中に隠れていたときのことです。だれかが、サウル王に「ダビデはエン・ゲディの荒野にいます」と知らせました。そこでサウル王は、イスラエル全体の中から強い兵隊を3000人も選抜し、ダビデを殺しに向かいました。</p> <p>サウルは、ダビデを捜している間に、トイレに行きたくなりました。そして、なんと用を足すために、ダビデたちが隠れているほら穴に入ってきたのです。奥の方にいたダビデとその部下は、それに気がつきました。サウルは気がついていないようです。その時、部下のひとりがダビデにささやきました。「チャンスです！サウルに復讐できるように、神さまがチャンスを与えてくださったのです。」</p> <p>ところがダビデは、サウルを殺しませんでした。代わりに、気づかれないように、そっとサウルの上着のすそを切り取るだけにしました。そして、部下たちに言いました。「サウルは神さまに油そそがれた王です。そのサウルに、私が仕返すということは、私が神さまに逆らうことになります。それは、絶対にできません。」こうして、部下たちにも、サウルを襲うことを許しませんでした。何も知らないサウルは、ほら穴から出て行きました。</p>
☆サウルが3000人の精鋭を連れて行ったのはなぜだと思いますか？ ダビデを本気で殺したいという気持ちの表れ・ダビデの強さを恐れていたから・ダビデには神さまがついているのを知っていたから…等。	
□ポイント2 ダビデはサウルに説明しました(24:8-22)	<p>ダビデもほら穴から出て行き、サウルのうしろから、「王よ」と呼びかけました。サウルがうしろを振り向くと、ダビデは地にひれ伏して、礼をしました。ダビデは言いました。「あなたはなぜ、『ダビデがあなたに害を加えようとしている。』と言う人のうわさを信じられるのですか。実はさっき、ほら穴で私は、あなたのすぐそばにいたのです。ある者はあなたを殺そうと言ったのですが、私は『神さまが油注がれた王に手を下してはならない』と言って、襲いかかることを許しませんでした。その証拠に、どうか、私の手にあるあなたの上着のすそをよくご覧ください。私はあなたの上着のすそを切り取りましたが、あなたを殺しはしませんでした。私は、あなたに害を加える気など一切ないことを知ってください。ですから、あなたも私を殺そうとする必要などないではありませんか。どうか、神さまが、正しいさばきをしてくださいますように。」</p>

私は神さまのさばきを信頼しますから、自分であなたに復讐することはしません。」

これを聞いて、サウルは「わが子ダビデよ。」と声をあげて泣きました。そしてダビデに「あなたは私より正しい。私はあなたに悪いうちをした。それなのに、私に仕返しをしなかったとは…。あなたが私に悪い思いを持っていないということがハッキリわかった。」と言いました。そして「あなたが必ず王になり、あなたの手によってイスラエル王国が確立することを、私は今、確かに知った。」とまで言ったのです。その後、ふたりはそれぞれ帰りました。

□ポイント3 ダビデは、サウルを神さまにゆだねました(26:1-12)

しかし、またサウルは、ダビデを捜し出して殺そうとします。3000人の精鋭を率いて、ジフの荒野にダビデを求めて下って行きました。

ダビデはそれを察知しました。そして、逆にサウルたちが陣を敷いている場所をつきとめました。夜、ダビデと甥のアビシャイは、そこにこっそり行ってみました。彼らは、サウルのテントの中にもぐりこみました。サウルはぐっすり眠っていて、彼の槍が、その枕もとの地面に突き刺してありました。他の兵士たちも、その回りに眠っていて、だれもダビデたちに気がつきません。

アビシャイはダビデに言いました。「神はきょう、あなたの敵をあなたの手へ渡されました。どうぞ私に、あの槍で彼を一気に地に刺し殺させてください。」しかしダビデはそれを許しませんでした。理由は、1回目と同じです。「殺してはならない。主に油そそがれた方に手を下して、だれが無罪でおられよう。主は生きておられる。神さまが正しくサウルを裁き、必要なら復讐をしてくださる。しかし、私たちが復讐をしてはならない。」そこで、ダビデはサウルの枕もとの槍と水差しだけを取って立ち去りました。神さまが守ってくださったので、だれにも見つかりませんでした。

☞ 引き続き、26章13-25節にダビデとサウルのやり取りがありますが、省略しました。内容は1回目ときとほぼ同様です。さばきを神さまにゆだねたダビデの信仰を学びましょう。

□結論 ダビデは、自分でサウルに復讐せず、神さまにゆだねました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

あなたは、お友だちや兄弟姉妹に「仕返ししたい」と思ったことはありませんか？自分が相手からイヤなことをされたら、誰でも「やりかえしたい」「相手が先にやったんだ」という思いを持ってしまいます。ダビデはサウルに対して何も悪いことはしていませんでした。それなのに、ダビデはサウルに殺されそうになって、荒野を逃げ回る生活をしなければならなくなりました。そんなとき、サウルに復讐をする絶好のチャンスがやってきました。しかし、ダビデは自分で復讐しないで、神さまの手にゆだねました。あなたは、人から傷つけられたとき、ひどいことをされたとき、どうしたらよいのでしょうか？

公平で正しいさばきをしてくださる神さまを、信じてゆだねましょう。神さまは、すべてのことをご存じです。だから、あなたが正しいことをしていれば、絶対に損をすることはありません。たとえ、その時、あなたが不公平に感じたとしても、必ず神さまは、正しい人を祝福し、悪を懲らしめられます。神さまは正しいさばきをなさいます。ですから、あなたは、悪をもって悪に復讐する必要がないのです。神さまの前に正しく歩みましょう。そして神さまにお任せすればよいのです。復讐は、必要であれば、神さまがして下さいます。むしろ、その相手を愛し、良いことでお返ししましょう(ローマ12:17-21、ルカ6:27-28、1テサロニケ5:15)。もちろん、あなたが正しいなら、きちんとそれを主張すべきです。しかし、激しい言葉や暴力で主張してはいけません。ダビデはつらいとき、神さまに祈りました(詩篇)。心にある憎しみは、人に対してでなく、神さまに向けて祈ることがゆるされています。公平で正しいさばきをしてくださる神さまを、信じてゆだねましょう。